



ごあんない



公益財団法人結核予防会
結核研究所



公益財団法人結核予防会結核研究所
所長 加藤 誠也

結核予防会結核研究所は1939年の創立以来、基礎から臨床・対策までの幅広い分野における研究、国・自治体・保健所・医療機関等への技術支援、国際協力・連携に関する活動を通して日本と世界の結核の制圧のために貢献することを使命としております。

臨床・疫学・対策分野では、発生動向調査の分析、ハイリスクグループへの効果的な対策、分子疫学等の新しい方法を駆使した研究、医療機関の協力による臨床研究、患者中心の服薬支援方法をはじめとして低まん延状況を踏まえた効果的な対策を進めるために必要な研究を実施しています。

技術革新を最終目標とした基礎分野では、抗酸菌の超微形態計測、新しい検査技術の開発や検証、結核菌ゲノム分析等の研究を行っています。また結核免疫については、感染、発症、再発に關わる宿主遺伝子や免疫病態、臨床疫学因子の解析等の研究や新規抗酸菌薬開発等の研究を進めています。

これらの研究成果は学術集会や学術雑誌での発表、また、ホームページで公開しているほか、厚生科学審議会や保健所・自治体における対策の検討の資料として活用されています。また、設立初期から実施している国内向けの研修、最新情報を提供する地区別講習会や地域における研修会などで情報提供され、医療・対策の発展に役立っています。

国際的な共同研究・調査、技術支援、研修講師としての招聘を通して、アジア、アフリカ、中東、ヨーロッパ諸国、米国等、多くの国や研究機関と協力関係を構築しています。1963年に開始した国際研修の修了者は98の国・地域から総数2300人を超え、それぞれの国・地域また世界の対策に貢献しています。また、厚生労働省・国際協力機構(JICA)・複十字シール募金等の資金による、高まん延国に対する国際協力事業の他、WHOの「指定協力センター」として、抗酸菌レファレンスラボラトリーとしての活動や調査・研究への技術支援を行っています。

結核研究所は日本を代表する世界の研究所として、国、地方自治体、保健所、医療機関、その他関係団体やWHOをはじめとする国際機関との協力のもとに、結核の研究・対策をとおして日本国民・世界の人々の健康と幸福の推進に貢献してまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

2017年4月

- | | |
|-------------------|---|
| 1939年 5月 (昭和14年) | ● 皇后陛下の令旨を賜り、秩父宮妃殿下を総裁と仰ぎ、財団法人結核予防会が設立される |
| 1939年 11月 (昭和14年) | ● 結核研究所が東京府下北多摩郡東村山村野口の保生園(現新山手病院)に開設される |
| 1943年 11月 (昭和18年) | ● 結核研究所が東京府下北多摩郡清瀬村大字清戸(現所在地)に移転 |
| 1947年 11月 (昭和22年) | ● 結核研究所付属療養所(現複十字病院)開設 |
| 1948年 2月 (昭和23年) | ● 第1回結核専門家国内研修開講 |
| 1953年 (昭和28年) | ● 第1回結核実態調査実施 |
| 1954年 9月 (昭和29年) | ● 第1回「結核の統計」発行 |
| 1958年 4月 (昭和33年) | ● 臨床部分離(現複十字病院)、ほぼ現在の機構となる |
| 1963年 6月 (昭和38年) | ● 第1回国際結核医師研修開講 |
| 1973年 9月 (昭和48年) | ● 第22回国際結核会議開催(東京) |
| 1982年 8月 (昭和57年) | ● 世界保健機関(WHO)研究協力センターに指定 |
| 1988年 4月 (昭和63年) | ● 國際協力部設置 |
| 1992年 4月 (平成 4年) | ● 國際結核情報センター設置 |
| 1995年 2月 (平成 7年) | ● 第1回アジア地域エイズ専門家研修開講 |
| 1999年 3月 (平成11年) | ● 組織改編(対策支援部設置) |
| 2003年 4月 (平成15年) | ● 組織改編(研究部と抗酸菌レファレンスセンター設置) |
| 2008年 9月 (平成20年) | ● 組織改編(臨床・疫学部と抗酸菌レファレンス部設置) |
| 2010年 7月 (平成22年) | ● 結核予防会が内閣府より公益財団法人に指定される |
| 2013年 4月 (平成25年) | ● 組織改編(抗酸菌部、生体防御部、国際協力・結核国際情報センター設置) |

臨床・疫学部

臨床・疫学部は、結核の疫学サーベイランス業務および研究を主軸に我が国での結核対策に関する幅広い分野での調査研究を行う部署です。

臨床から疫学までの幅広い研究活動

研究面の活動は『日本の結核対策に寄与する研究』を旨とした方針で運営されています。研究分野は、部の名称にある臨床的・疫学的研究に留まらず、分子疫学研究から結核対策・法制研究、実地調査、結核対策支援ツールの開発等にいたるまで、幅広い分野に展開しています。また、我が国での結核対策の経験を生かした、国際協力分野における貢献もおこなっています。

疫学情報室と疫学情報センター

質の高い結核サーベイランスを維持運営するため、臨床・疫学部には疫学情報室が置かれています。疫学情報室は日本の結核疫学統計の実務を行うと同時に、疫学情報の発信と疫学研究を行い、国および各地域の結核対策に直接間接に寄与することを目的としています。

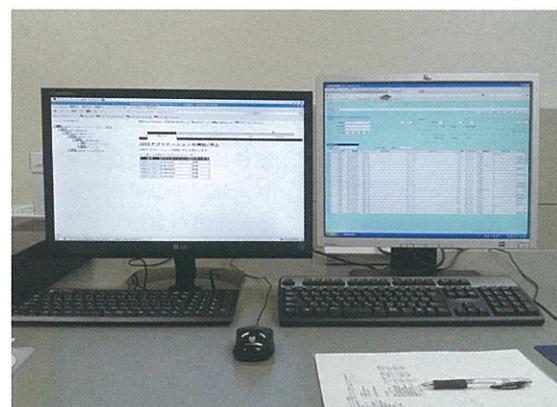
実務としては、月報・年報・結核管理図等の統計作成に留まらず、結核研究所において過去50年以上の間蓄積されてきた膨大な結核サーベイランスデータとその分析経験を生かし、国の結核登録者情報システムの構築・運用の支援も行っています。

また対外的な情報発信基地としての疫学情報センターを運営しており、結核サーベイランスデータの集計・解析結果をインターネットのウェブを通して情報公開すると共に、国際機関・全国保健所・医学研究者などからの問い合わせにも対応しています。

臨床・疫学部は、結核サーベイランスおよび臨床疫学的研究の両面から、結核対策の科学的根拠を提供する部署として、また国および各地域の結核対策を支える疫学情報の分析・研究・提供サービスを行う部署として、日本の結核制圧に向けて貢献していくたいと考えております。



古くは1954年から今日に至るまで、結核予防会では国の指導監督の下に年間の結核疫学データを記載した『結核の統計』を発行してきました。現在これら『結核の統計』に収載されるデータは臨床・疫学部疫学情報室の研究員および事務員によって詳細なエラーチェックを受けた後、単行冊子としてまとめられています。



上の写真は、結核研究所臨床・疫学部内で、保健所における結核サーベイランスの環境を再現したシステムです。これらによって、システム細部の検証を可能とともに、保健所からの入力に関する問い合わせにも適切迅速に対応可能な体制を構築しています。

抗酸菌部

抗酸菌部は、その名の通り抗酸菌症の原因である抗酸菌の研究・解析を行う部門として、細菌科、結核菌情報科および主任研究員で構成されています。

細菌学的研究あるいはレファレンス機能

細菌科では結核をはじめとする抗酸菌症の細菌学的診断法の開発や評価、抗酸菌の表現型・遺伝学的特性の解析、環境調査等細菌学的技術を要する抗酸菌の臨床疫学的調査、電子顕微鏡を用いた超微細形態学などを研究しています。また、抗酸菌検査の効率的実施と精度保証についても研究し、世界保健機構西太平洋地域の抗酸菌検査に関するSupra-national Reference Laboratoryにも指定されています。結核菌管理保管施設を有し、結核菌病原体サーベイランスの確立を目指しています。

結核菌情報科における遺伝情報の研究

結核菌情報科は、抗酸菌のゲノム情報を利用し、結核の分子疫学的な結核菌の遺伝子型別法の開発からその利用まで一貫した研究を行っており、これは結核菌病原体サーベイランスの確立(分子疫学)に貢献しています。また、近年急激に増加している非結核性抗酸菌症における稀少菌種の同定についても数十年にわたる知見を有しており、この分野でのレファレンスとなっています。さらに抗酸菌症の予防・診断・治療に貢献すべく細菌学的基礎研究を展開しています。

抗酸菌部では、各科の研究から得られた知見を総合的に利用するため他の部門との協力も行いつつ、抗酸菌症対策に貢献することを目標としています。



生体防御部

生体防御部は病理科、免疫科、動物実験科の3科があり、さらに主任研究員で構成されています。病理科、免疫科では、結核の感染、発症、再発などに関する生体側の現象を遺伝子、細胞レベルで分析・統合し、抗酸菌症の分子病態を理解して、その知見を対策に役立てることを目標としています。動物実験科は実験動物を用いる各種基礎研究の支援業務を行っています。主任研究員は新規抗結核薬開発と結核併用化学療法に関する薬理学的基礎研究を行なっています。

途上国とのゲノム臨床疫学共同研究

15年前からベトナムなどの医療機関と国際共同研究を行っています。バッカマイ病院にある医学共同研究センターを拠点に、結核症の感染、発症、再発に関する宿主遺伝子、免疫病態、臨床疫学因子の解析、菌と宿主因子の相互関連に関する検討など幅広い研究を実施しています。特に潜在性結核感染症、多剤耐性結核対策につながる成果を目指しています。

疾患感受性遺伝子と分子病態の研究

気道粘膜防御因子群の遺伝子多型の機能的意義について検討しています。我々はヒト第6染色体上に新規のムチン遺伝子を同定したほか、ヒト気道上皮細胞における機能的遺伝子多型を同定して、広く慢性気道炎症性疾患の病態、抗酸菌の易感染性に迫る研究を行なっています。

結核菌の細胞内寄生戦略を解明する研究

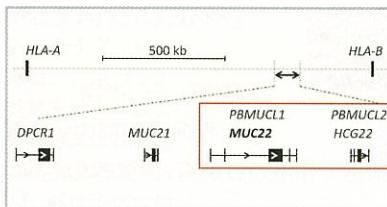
結核菌はマクロファージに貪食されても、その殺菌分解機構を回避して、マクロファージ内で増殖することができる細胞内寄生性細菌です。我々は、結核菌感染マクロファージにおける小胞輸送を明らかにすることによって、結核菌のユニークな細胞内寄生戦略を解明する研究を行っています。特に、結核菌によるファゴリソーム阻害機構とオートファジー誘導阻害機構に関して、さまざまな新知見を蓄積しています。

新規抗結核薬の開発、結核併用化学療法に関する薬理学的研究

我々は結核の治療期間の大幅な短縮を目的に、新薬開発と次世代併用レジメン開発に貢献する薬理学的研究を実施しています。近年は国際NPO組織 TB-Alliance(米国)、国内製薬企業との共同研究を軸に、グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)の新規抗結核薬研究開発プロジェクトのScreening Platformとしての機能も果たしています。



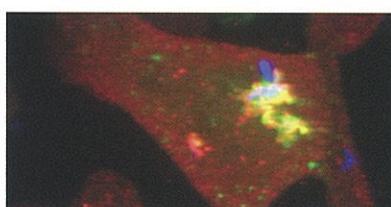
ハノイ市肺病院、
ハノイ市各郡の
結核センターの
代表者とともに、
共同研究の進捗
状況を確認して
いる。



第6染色体上の慢性気道
炎症性疾患感受性遺伝子
候補領域内のムチン遺伝子
クラスター。赤枠内は
我々がクローニングした新
規ムチン・ムチン様遺伝子
*PBMUCL1(MUC22)*と
PBMUCL2。



バイオハザード
P3・感染動物実
験施設内におけ
る実験の様子



宿主細胞のアクチン結合タ
ンパク質であるCoronin-
1aをノックダウンしたマク
ロファージに結核菌(青)を
感染させると、結核菌は
オートファジーの標的とな
り、オートファゴーム(緑、
赤)が形成される。

対策支援部



対策支援部は、企画・医学科、保健看護学科、放射線学科の3科からなり、国、地方自治体、医療機関等が行う結核対策に対する技術的支援を担っています。主な活動として、研修による人材育成、相談対応等による対策支援、社会への普及・啓発を柱としています。

国内唯一の人材育成機関

結核対策に関する我が国唯一の人材育成機関として、保健所および医療機関に勤務する医師、保健師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務担当者など、多岐にわたる結核対策従事者を対象に研修事業を行ってきました。また、結核専門家の後継者育成を目的とした結核対策指導者養成研修の修了者が集う全国会議では、地域の実情と課題を協議し、対策への提言を行っています。研修を通して築かれた修了者の全国的なネットワークは結核対策の大きな推進力となっています。

セミナーや相談への対応を通じた対策支援

毎年、新しい施策や技術の周知と関係者の経験交流・相互啓発を目的として、地区別講習会・国際結核セミナー・全国結核対策推進会議を開催しています。また、地域での研修会やコホート検討会、集団感染対策会議への専門家派遣、メールや電話等による相談対応を通じて、地域の結核対策の推進に貢献しています。

普及・啓発活動

日本公衆衛生学会総会において、結核研究所の事業や結核対策の重要性を啓発するためのブース展示を行っています。また、結核対策推進会議新報を発行して最新の情報の発信に努めると共に、当所ホームページに各種教材(DOTS、外国人結核、接触者健診、BCG等)やFAQを掲載し、現場に役立つ資料の提供を行っています。



国際協力・結核国際情報センター

2013年度より、より包括的な国際協力活動を実施するため、旧国際協力部と国際結核情報センターが統合され本センターとなりました。本センター（企画調査科・国際研修科）は、結核分野の国際協力を結核予防会国際部や他の部署と協力して行っています。主に開発途上国を中心とした結核対策推進のための技術支援、研修、研究や、国際機関等との連携、結核国際情報センター等の活動を実施しています。



カンボジア有病率調査でのレントゲン検査

結核対策（結核終息戦略 End TB Strategy）推進、結核疫学状況・対策評価のための技術支援と研究

途上国の結核対策システムの導入や普及のため、医師や検査技師などの専門家派遣、助言や技術指導により、プログラムの計画から評価に渡る支援を行っています。対策の支援は、国際協力機構（JICA）の結核対策プロジェクト、結核予防会、USAIDによる結核対策支援プログラムを通して行われます。また、開発途上国の結核問題の正確な把握・改善・対策評価を目的とした研究活動も積極的に行ってています。近年は、特に2015年の国連開発目標達成評価に関連し、途上国の結核疫学状況・対策評価のための実態調査への技術支援・研究が重点活動のひとつになっています。結核国際情報センターでは、アジアを中心とした各国の結核情報の収集と分析を行い、定期的に英文ニュースレターの発行を行っています。



細菌検査国際研修実習

研修による人材育成

1963年より国際研修を行っており、現在は、結核対策担当者を対象にした、2つのJICA集団研修コースとともに、個別研修を行っています。将来結核分野で国際協力を担う日本人専門家を養成するための研修も行っています。国際研修は2012年には50年目を迎え、これまでに98か国、2300人以上の研修生の育成を行ってきました。

国際機関との連携

世界保健機関の協力組織、ストップ結核パートナーシップや国際結核肺疾患予防連合のメンバーとして、対策指針作成及び調査・研究等の活動に参加しています。

組織図



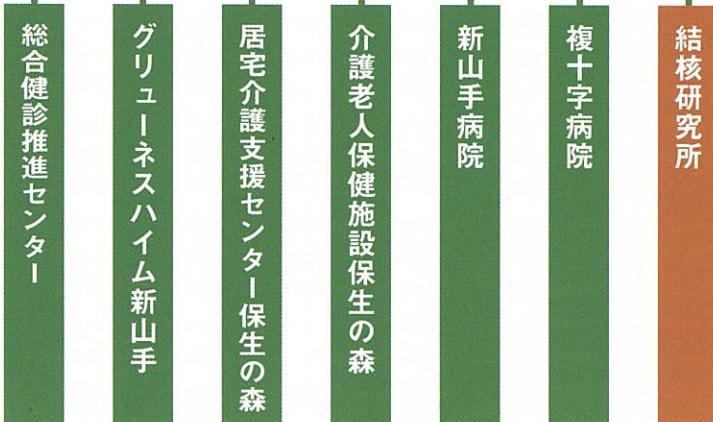
公益財団法人結核予防会

公益財団法人結核予防会は、昭和14年に内閣総理大臣に賜った皇后陛下(香淳皇后)の令旨を奉戴し、閣議決定により設立された公益法人です。総裁秋篠宮妃紀子妃殿下のもと、結核を中心に、肺がん、その他の呼吸器疾患の予防事業、調査研究及び国際協力等を行っています。

結核研究所は公益財団法人結核予防会の1事業所として、研究・研修・国際協力等の事業を担っています。

公益財団法人結核予防会

本部



「複十字シール募金」にご協力ください



結核は「過去の病氣」ではありません。複十字シールは、結核や胸の病気をなくすための募金にご協力くださった方へお配りしています。結核予防会は、特定公益増進法人の認定を受けており、所得税・法人税の控除対象となり、個人の方で50万円以上、法人様で100万円以上の募金をいただけますならば、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下より感謝状の贈呈がございます。

複十字シール募金は、国内外の結核治療・予防に目に見える形で生かされています。

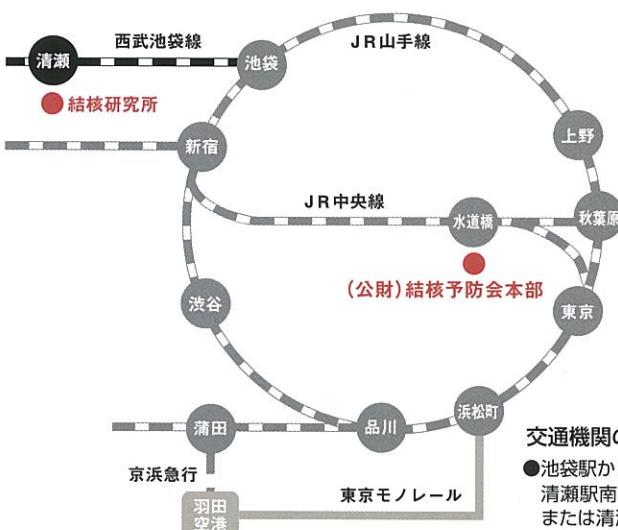
募金・シールの
お申し込みは

公益財団法人結核予防会 募金推進部
シールはろうよ

☎ 0120-416864

<http://www.jatahq.org/headquarters/index1.html>

所在地



交通機関のご案内

●池袋駅から西武池袋線にて清瀬駅下車
清瀬駅南口から徒歩15分
または清瀬駅南口バス乗り場②番から「複十字病院」下車
②番乗り場の全てのバスが「複十字病院」を経由します
タクシー:南口から5分程度



公益財団法人結核予防会 結核研究所

WHO指定研究協力センター

〒204-8533 東京都清瀬市松山3-1-24
TEL:042-493-5711 (代表)
FAX:042-492-4600

<http://www.jata.or.jp>